「フードテック推進ビジョン（案）」及び「ロードマップ（案）」に対する御意見の概要と御意見に対する考え方（修正箇所）

御意見に対する考え方（修正前）	御意見に対する考え方（修正後）	御意見に対する考え方（反映版）
環境や生態系への影響に関する御意見 フードテック推進ビジョン（案）３・４ページの記載のように、様々なタンパク質源の活用や生産性の高い品種の開発等の技術開発及び実証、ICT 等を用いた畜産・養殖業の環境負荷低減への取組、資材調達における脱輸入、脱炭素化、環境負荷低減に資する取組を進め、将来的に、気候変動への対応や生物多様性保全など地球環境への負荷低減を目指しています。また、生物多様性保全など地球環境への負荷低減と、タンパク質源等の食料供給の増大の両立を実現することを目指しており、フードテック推進ビジョン（案）では、生物多様性の観点を踏まえて記載しています。 ゲノム編集技術応用食品のうち、遺伝子組換え食品の規制の対象外となっているものについては、その利用に先立ち、開発者や輸入者に対し、生物多様性への影響の観点から情報提供を求め、農林水産省において、生物多様性への影響について問題がないことを確認し、省のホームページに情報を公開することとしています。 遺伝子組換え食品については、農林水産省が環境省とともに、その生物多様性影響について審査し問題がないと認められた場合のみ、その使用を認めることとしています。	**環境や生態系への影響に関する御意見** フードテック推進ビジョン（案）３・４ページの記載のように、様々なタンパク質源の活用や生産性の高い品種の開発等の技術開発及び実証、ICT 等を用いた畜産・養殖業の環境負荷低減への取組、資材調達における脱輸入、脱炭素化、環境負荷低減に資する取組を進め、将来的に、気候変動への対応や生物多様性保全など地球環境への負荷低減を目指しています。また、生物多様性保全など地球環境への負荷低減と、タンパク質源等の食料供給の増大の両立を実現することを目指しており、フードテック推進ビジョン（案）では、生物多様性の観点を踏まえて記載しています。 ゲノム編集技術で得られた生物~~応用食品~~のうち、遺伝子組換え生物等~~食品~~の規制の対象外となっているものについては、その利用に先立ち、開発者や輸入者に対し、生物多様性の確保~~への影響~~の観点から情報提供を求め、農林水産省において、生物多様性への影響について問題がないことを確認したうえで、省のホームページに情報を公開することとしています。 遺伝子組換え農作物の生物多様性への影響~~食品~~については、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」に基づき、農林水産省及び~~が~~環境省が~~とともに、科学的に評価し、その生物多様性影響について審査し~~問題~~が~~ない~~ことが確認されたもののみ、栽培や流通等を認めています。~~と認められた場合のみ、その使用を認めることとしています。~~	**環境や生態系への影響に関する御意見** フードテック推進ビジョン（案）３・４ページの記載のように、様々なタンパク質源の活用や生産性の高い品種の開発等の技術開発及び実証、ICT 等を用いた畜産・養殖業の環境負荷低減への取組、資材調達における脱輸入、脱炭素化、環境負荷低減に資する取組を進め、将来的に、気候変動への対応や生物多様性保全など地球環境への負荷低減を目指しています。また、生物多様性保全など地球環境への負荷低減と、タンパク質源等の食料供給の増大の両立を実現することを目指しており、フードテック推進ビジョン（案）では、生物多様性の観点を踏まえて記載しています。 ゲノム編集技術で得られた生物のうち、遺伝子組換え生物等の規制の対象外となっているものについては、その利用に先立ち、開発者や輸入者に対し、生物多様性の確保の観点から情報提供を求め、農林水産省において、生物多様性への影響について問題がないことを確認したうえで、省のホームページに情報を公開することとしています。 遺伝子組換え農作物の生物多様性への影響については、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」に基づき、農林水産省及び環境省が科学的に評価し、問題ないことが確認されたもののみ、栽培や流通等を認めています。